



「菜の花プロジェクト」～うまれる・つながる・ひろがる～

NPO法人
菜の花プロジェクトネットワーク代表

ふじい あやこ
藤井 絢子

【プロフィール】

神奈川県生まれ。1971年より滋賀県に在住。夫と4女の家族と暮す日常から、食の安全性を求めて地域生協づくりに関わりとともに、琵琶湖で環境専門の生協を立ち上げる。「水、緑、土、大気、エネルギー」の5部門にわたるエコロジー商品の開発・普及、合併浄化槽の普及、太陽熱利用、雨水利用などを手がける。環境にやさしい暮らし提案を実践。NPO法人 碧いびわ湖（旧 滋賀県環境生活協同組合）監事、環境省中央環境審議会委員など多数の委員を務める。著書に「菜の花エコ革命」「菜の花エコ事典」（いずれも創森社から出版）など多数。

「菜の花畑に、入り陽薄れ、見渡す山の端、霞深し…」三月になると、南の方から菜の花便りが多くなり、胸が躍ります。「黄色は色彩心理学から言っても、人を元気にする色なの」と、幸田シャーマンさんに伺った事もあります。確かに、寒さの中、じっと口ゼツタ状に葉を閉じ、陽の光と共にグリーンと成長し、次々花芽をつけて空に向かって輝く菜の花には、不思議な力を感じます。

1970年代後半、琵琶湖に大規模な赤潮が発生し、そのSOSに応え「せっけん運動」に関わったのが、琵琶湖との深いつき合いのスタートでした。母なる湖、生命を支える水源の湖が、このままでは大変な事になるとの危機感が、行動に駆り立てたのです。天ぷら油の回収ステーションづくり、回収作業、せっけん製造、配送のシステムづくりも市民主導で行われました。幼子を抱えた母親からベテランまで、女性イニシアティブの大きなムーブメントは、「富栄養化防止条例」制定の一翼を担い、メーカーの有リン合成洗剤製造ストップにも繋がったのです。

1990年代に入り、地球温暖化問題が語られるようになった頃、実は「せっけん運動」のうねりは下降線を辿っていたのです。琵琶湖から人々の気持が離れて行くのが感じられました。当時、琵琶湖は赤潮からアオコへと富栄養化が進むなど、状況は芳しくありませんでした。水環境問題に、地球温暖化問題が追い打ちをかける中、市民は行動の具体的なイメージを掴みきれずにいました。1989年に環境の専門生協を立ち上げていた私たちは、手をこまねてはいられず、直ぐ新たな行動に出ます。せっけん使用率低下の中、回収した原料の廃食用油が、環境生協の倉庫の内外に、山のように積み上げられていったのです。この山を崩すアイデアを求め、国内・国外で先ず情報収集に取りかかります。

大きなヒントが、ドイツにありました！1973年第一次オイルショックの時に、何と脱化石への挑戦が始まっていたのです。農地で菜種を育て、食用と化石代替のバイオディーゼル燃料化政策です。バージン菜種油を燃料に！？私たちは、まず廃食用油が原料のバイオ燃料化を模索しました。1991年でした。ドイツからおよそ

20年遅れのスタートです。更に1998年から休耕田、耕作放棄地で菜種を育てる。資源循環と農地再生など、持続可能な地域づくりを見越しての一步を踏み出しました。当時、人口5700人の滋賀県の小さな町愛東での、大きな挑戦です。全国各地で、ごみ問題・資源循環・農業問題など課題を抱えており、様々なセクターの愛東視察に対応の日々でした。そして全国各地に文字通り種子が蒔かれ、北海道から沖縄まで「菜の花プロジェクト」が広がりを見せています。2011年3月11日後、多数の東日本被災地に於いても。

フェニックスの最終処分場で、護岸を活用した海の再生、藻場の造成、ワカメの育成・堆肥化とならび、菜の花栽培・搾油の取り組みにも挑戦が始まっていると聞き、「菜の花プロジェクト」のもうひとつの可能性を感じます。20世紀から21世紀にかけての人々の暮らし、産業のモノの流れを学ぶ持続可能な循環モデルをつくり出す、未来への可能性の転換です。未来世代に向け、私たちはまだまだ模索と挑戦が必要です。



東近江市 市制10周年記念事業

「第15回全国菜の花サミット」

2015年4月25日(土)13時～26日(日)12時まで

菜の花プロジェクトはほんまに地域を元気にしたんかいのお？

～確かめに行こう！東近江～

<http://www.nanohana.gr.jp>

編集後記

リレーエッセイの寄稿依頼にあたり、滋賀県を訪れました。寒い日でしたが、某スタッフが事前に調べていた近江牛レストラン。

おいしいランチで体を温めてから、車窓風景豊かな近江鉄道に乗車。20分ほど揺られて、さらにタクシーに乗り、東近江市にある、菜の花館に到着です。

事務局の方より「バージン菜種油」がせっけんや燃料に生まれ変わる工程を丁寧に教わり思ったこと。菜種油は優れた自然エネルギーだが、昨今の原発稼働停止で我が国は化石燃料への依存を強めつつあるとのこと。「ピンチをチャンス」に変えることが、「今の時代に生きる」私たちの使命なのかもしれません。

ご意見ご感想などございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せください。

（編集スタッフ一同）

i land fill Vol. 22

発行: 大阪湾広域臨海環境整備センター
「フェニックスセンター」

<http://www.osakawan-center.or.jp>

〒530-0005 大阪府北区中之島2-2-2 大阪中之島ビル9階

TEL 06-6204-1721(代)

FAX 06-6204-1728

E-mail phoenix@osakawan-center.or.jp

i Land Fill は当センターホームページにも掲載しております。



みなさんと未来を考えるフェニックスセンター★NEWS

i land fill

Vol.22

特集

新たな体制でさらに安心な
ごみ処理を行います

廃棄物は
どのように受け入れ
られているの？



地球環境を守り、より豊かな生活を実現していくため、私たちはお互いに力を合わせて、廃棄物発生抑制、再利用、中間処理による減量化・再生利用を行っています。それでも埋立処分などの適正な最終処分が必要なものがどうしても残ってしまいます。大阪湾フェニックス事業では、近畿2府4県168市町村の広い範囲の市民のくらしやさまざまな産業活動から排出、減量化され、最後に残った廃棄物の多くを埋立処分しています。また、埋立てた土地は港湾機能の整備に活用するものであり、多数の関係者が関わる広域的な事業です。

広域事業であるため、多くの関係者が、排出事業者は廃棄物の適正な排出、所管行政庁は必要な監督・指導、当センターは搬入物の確認というように、それぞれの役割に応じてごみの適正処理が行われるよう努めながら事業を進めてきました。

しかし、平成26年5月、滋賀県高島市環境センターが過去において、当センターが定めるダイオキシン類受入基準を超えたばいじん処理物を搬入していたことが発覚しました。

そのため、排出事業者による自主検査、所管行政庁による立入検査、当センターによる抜取検査を強化したところ、計5件のダイオキシン類受入基準超過が発覚し、直ちに当センターへの搬入を停止しました。しかし、未然に防ぐことができずにご心配をおかけしました。

その後、当センターが、排出事業者の実施した改善（原因究明・再発防止対策・廃棄物の安全性の確認）を確認し、所管行政庁の意見を求め、関係者と協議・調整できたものから搬入を再開しました。今回のことは、大阪湾フェニックス事業の信頼を維持し、続けていくためには、排出事業者、当センター、所管行政庁、関係者各々の役割を確実に果たすとともに連携して一丸となって再発防止に取り組むことが大事であることを再認識いたしました。今後は、排出事業者、当センター、所管行政庁、関係者一丸となった情報共有や重層的で全国一厳しい検査体制により基準超過を防止していきます。



排出事業者

施設管理と廃棄物の排出を適正に行うため、当センターとの契約に基づく検査や独自検査を実施※1

所管行政庁

立入検査など適正な監視、指導

大阪湾フェニックスセンター

契約に基づき排出事業者に適正な検査と搬入を求めるとともに、受入検査を拡充

連携することで情報共有と重層的で全国一厳しい検査体制を実現

関係者一丸で大阪湾フェニックス事業の信頼維持

A.

「大阪湾フェニックス計画」では、大阪湾に4つの埋立処分場を設け、近畿2府4県168市町村の受入区域から発生した廃棄物を受け入れています。また、「廃棄物の輸送時間を最小とすること」、「特定の搬入施設（基地）への集中を避けるため可能な限り分散させること」を基本として大阪湾沿岸の9つの基地ごとの受入区域を定めています。

※1
平成27年度より、一般廃棄物埋立処分契約に基づき、契約前（1回）に加え、契約期間中にも中間検査（年3回）の実施を求めることとしました。また、排出事業者は、契約に基づく検査だけでなく施設の適正な運転管理のための独自検査を行う事とされます。



第8回『廃油』を生まれ変わらせましょう。

今回のテーマは「**廃油**（不要になった油・用済みの油）を生まれ変わらせましょう。」
残ってしまった食用油は、流しに捨ててしまうと、川や海を汚す原因になります。
そこで、紙や新聞紙に吸わせたり、廃油凝固剤などを使って捨てる方もいると思いますが、もっとオススメできるエコなリサイクルをご紹介します。

廃油から、①キャンドルや②せっけんを作る事ができるので、ぜひ挑戦してみてください。



①キャンドル

廃油のリサイクルと電気を消す事で**ダブルエコが実現します**♪
通常のキャンドルを燃焼すると新たなCO₂を発生させますが、廃油キャンドルは、原料である植物が吸収したCO₂を出しただけ。新たなCO₂は出しません。芯の燃焼があるのでゼロではありませんが、リサイクルだけでなく環境に優しいキャンドルです。

材料と作り方

・廃油100ml ・廃油凝固剤6g ・クレヨン
・広口ビン ・たこ糸(なければティッシュをよって可) ・割り箸
香りをつけたい時はアロマオイルを入れると良いです♪

- ① 廃油は使う前に漉しておく
- ② キャンドルに色をつけるため、クレヨン进行細かくきざむ
- ③ タコ糸を適当な長さに切り芯にする
- ④ フライパンの中で廃油を温め、きざんだクレヨンを入れる
- ⑤ 廃油凝固剤を入れてかき混ぜ、固まってしまう前にビンに入れる
- ⑥ 芯がキャンドルの中心になるように、割り箸ではさんで整え、ビンの上に置く
- ⑦ さめて固まったらできあがり♪

②せっけん

廃油せっけんは、よく落ちしっかりとします。家庭で出る食物油の廃油で作るので自然環境にも家計にも優しい石鹸です。

材料と作り方

・食廃油600g ・苛性ソーダ(水酸化ナトリウム)85g ・水1カップ
・牛乳パック1個 ・さいばし3本 ・ガムテープ

- ① 水を牛乳パックに入れる
- ② 苛性ソーダを少しずつ入れ15分位かきまぜる(熱くなるので注意)
- ③ ②へ油を少しずつ入れ30分位かきまぜる
- ④ 牛乳パックの上を密封し1週間位置く
- ⑤ 固まったら牛乳パックごと切る



フェニックス講座

大阪湾フェニックスセンターでは、事業の内容・ごみの行方・環境調査・3R活動の重要性などについて、大阪湾圏域の住民の皆様などを対象にスライド等で解説する「フェニックス講座」を実施しています。平成26年7月16日、尼崎市立成良中学2年生のみなさんを対象に、昨年と同様に総合環境学習のひとコマ(受講班)を担当し、講座を実施いたしました。

冒頭あいさつ、スタッフの紹介を行った後、今回は「大阪湾=おっさんか湾」と題して、大阪湾を人間の体に例えて健康診断をしていくとどんな結果がでるか?診断結果は大阪湾はコレステロール値の高い人間でいうメタボ状態でした。さらに人間の出血は海の赤潮にあたり、血中の酸素濃度が低い顔面蒼白は青潮であるとのたとえ話を交えながら、大阪湾の現状や大阪湾が我々にもたらす恩恵についての解説、そうした中でセンターが行っている環境への取組を紹介し、今までと少し違った視点でのユニークなスライドショーになりました。これまではなかったのですが、スライド中に埋立処分場の海底の様子が分かる動画も組み入れたことで、処分場の近海の様子がより分かりやすく伝えられたかなと思います。

また、今回は太陽光発電についての紹介もさせていただきました。二酸化炭素を排出せず、自然エネルギーを利用するため、なくなる心配がないエネルギーである一方、大量の電気を作るためには、広大な土地がいる、設置費用が高いなどデメリットもあります。しかしながらやはり化石燃料にとってかわる重要なエネルギーであるとの説明に、生徒のみなさん納得されている様子でした。講座後、多くの感想もいただきました。「大阪湾の状態を人間の健康診断で表現していた点がおもしろかった」「汚れた大阪湾のためにいろんな工夫をして改善しようとするのがすごいと思った」「海を父母にたとえていて、おもしろかった」「太陽光発電を使って電気をつくるには、たくさん土地があることがわかった」「太陽光発電では、二酸化炭素が出ないのがすごい」などなど。

環境問題と向き合う生徒のみなさんの真剣な眼差しを受け、より良い環境を未来世代に引き継げるように当センターはフェニックス計画を進めてまいります。

※フェニックス計画とは

近畿の自治体などが出資する事業であり、大阪湾の埋立により、近畿圏から発生する廃棄物の最終処分を行い、埋立てた土地を活用して、港湾機能の整備を図るものです。



泉大津沖埋立処分場



大阪沖埋立処分場



神戸沖埋立処分場

処分場見学のご案内

大阪湾センターでは行政機関、排出事業者、市民の皆様様に廃棄物最終処分場の実情を知っていただくため、定例見学会を実施しています。

見学会では、廃棄物の受入から処分までの流れ、処分場の規模や構造、埋立の方法や進捗状況、排水処理等の環境対策等をご案内します。

交通船の定員や安全確保のための制約事項がありますので、ご希望の方は下記にお問い合わせください。

処分場	実施日	お問い合わせ先
泉大津沖埋立処分場	毎月第1・第3火曜日	大阪建設事務所(泉大津分室) (0725)31-0929
大阪沖埋立処分場	毎月第2・第4火曜日	大阪建設事務所 (06)6613-6417
神戸沖埋立処分場	毎月第2火曜日	兵庫建設事務所 (078)881-0761

※尼崎沖埋立処分場の見学会は実施していません。

※団体での見学は、見学曜日の相談を含め本社総務課(06-6204-1721)にお問い合わせください。

自治体における廃棄物に関連する環境取組事例について(兵庫県)

兵庫県では、海岸における良好な景観及び環境を保全するため、海岸漂着物の発生抑制について、県民への普及啓発や回収・処理を行っています。

海岸漂着物の多くは、陸域で発生したものであり、河川を通じて海に流れ出し、海流や風により運ばれたものが広く海岸に漂着しており、その中には生活に伴って発生したごみ等が含まれています。

このことから、平成26年度は、海岸漂着物問題への理解を深めることを目的として海岸漂着物の清掃を実施しました。また、清掃場所周辺に生息している外来種の駆除も併せて実施しました。

平成26年7月に豊岡市竹野町にて、神戸、明石地域の高校のインターアクトクラブ員35名と豊岡市内の高校のインターアクトクラブ員10名の計45名(顧問を含む)が2班に分かれ、山陰海岸国立公園竹野スノーケルセンターの職員の指導のもと、1班は海岸清掃、もう1班は外来種「オオブタクサ」の駆除を行いました。

参加者全員、竹野スノーケルセンター職員の説明に耳を傾け、清掃活動では、「これは可燃物なのか、それとも不燃物になるのか」、外来種「オオブタクサ」の駆除では、「これは似ているが違う、これがオオブタクサだ!」とグループで考えながら熱心に取組んでいました。

作業終了後には、「もっと回収したかった」「次回は、外来種駆除等の清掃活動の時間、また、絶滅危惧種の解説等、環境学習の時間を多くして欲しい」など、環境保全への意欲が感じられる意見が多く寄せられました。

環境保全活動への取組みに熱心な瀬戸内海側と日本海側の高校生の交流も図ることができ、大変有意義な一日となりました。

【実施日】平成26年7月19日(土)

【場 所】豊岡市竹野町大浦、小浦
(竹野スノーケルセンター周辺海岸)

【参加者】滝川高校……………16名
滝川第二高校……………2名
神戸山手女子高校…………12名
明石西高校……………5名
豊岡総合高校……………10名
(計45名)



平成27年度も環境イベントでお会いしましょう!

大阪湾フェニックスセンターでは、府県や市が開催する環境イベントに積極的に参画し、スライドショーやパネル展示などにより、広く事業紹介をするとともに、3R活動の啓発を行っております。

平成26年度は8会場、延べ12日間の環境イベントに出展し、2千人を超える多くの皆様にご参加いただきました。なかでも7月に開催されました岸貝クリーンセンターフェアにおきましては、幅広い年齢層の方にご参加頂き、特に多くの子供たちが熱心に「フェニックス計画」や「ごみのゆくえ」について学んでくれました。

平成27年度も各地で開催される環境イベントに参画しますので、皆様も是非ご参加ください。

なお、出展スケジュールなどにつきましては、決定次第HPに掲載しますので、ご興味のある方はアクセス願います。

岸貝クリーンセンターフェアでの様子



フェニックスセンター 検索

大阪の廃棄物技術を世界に!

大阪市はベトナム国ホーチミン市と、2013年10月に「低炭素都市形成に向けた覚書」を締結し、気候変動対策実行計画の策定への協力や人材育成も含めた総合的な政策支援を行うなど、同市の低炭素都市形成に向けた取組みを進めています。

ホーチミン市が快適で健全な都市として発展を続けるため、交通政策や住宅政策、産業政策などと調和した総合的な計画の策定をめざすとともに、都市の開発に先立ち廃棄物処理施設などの静脈インフラ用地を計画的かつ戦略的に確保することにも着目して協議を進めています。

また、気候変動対策実行計画をより実効性のあるものにするために、ホーチミン市の実情に合わせた具体的なプロジェクト形成を進めています。特に廃棄物分野においては、経済成長とともに今後深刻化する可能性のあるごみ量の増加と処分場の不足に対応するため、民間企業等と連携しながら、最新の公害防止技術や、焼却余熱を活用した高効率の発電設備を取り入れた、衛生的でかつエネルギー回収もできる焼却施設の導入による統合的廃棄物管理の実現をめざしていきます。

これらの廃棄物技術をはじめとした大阪の先進的な環境技術を世界に広めるため、大阪市は引き続き総力をあげて支援に取り組んでいきます。



兵庫建設事務所の紹介

兵庫建設事務所は兵庫県内にある「尼崎沖」、「神戸沖」の2つの最終処分場と、「尼崎」、「神戸」、「播磨」、「姫路」、「津名」の5つの搬入基地を所管し、所長以下、業務課、建設課の2課、5事業所の体制で、処分場建設の計画・施行・管理や廃棄物の受入・海上輸送・埋立処分等の業務を行なっています。

事務所は神戸市灘区、摩耶・六甲の山なみを背にして、清流「都賀川」の河口、灘浜に設置され、搬入基地のひとつである神戸事業所が併設されています。「都賀川」の両岸は遊歩道が整備されており、シラサギやアオサギが獲物を狙っていたり、カルガモが遊歩道を歩いているところを目にすることもあります。

また、当地は酒どころとして有名な灘五郷(今津郷・西宮郷・魚崎郷・御影郷・西郷)のひとつ「西郷(にしごう)」の南西に位置し、事務所の近くには酒造会社の工場や資料館が点在しています。幹線道路を少しはすれば、「旧西国浜街道」や「酒蔵のみち」などのある閑静な町並みで、散策コースとしてもお勧めです。

兵庫建設事務所:神戸市灘区灘浜町1-2
阪神大石駅下車南へ徒歩15分

